

## 4th DAY

12月17日

MEN/WOMEN予選、決勝で大会最終日。この日の昼食はチキンバーガーとスプライト。マクドナルドよりも量が多く値段も高いが、鶏肉でタンパク質も取れ、満足そうな選手たち。そして、国際審判員の山口さんが最終試合MEN決勝の主審を務めた。添乗員のO氏もカメラマンとしてフォローする場面もあり、選手26人、役員・審判・スタッフ・添乗員の38人が総力戦で挑んだ大会だった。

結果はMEN第3位、WOMEN準優勝と全選手がメダルを獲得できた。表彰式を終え、会場を出発したのは日付が変わった0時20分。ホテル到着後、長谷川団長、城門理事長が健闘をたたえ解散。



## 5th DAY

12月18日

早速、帰国ための準備で、コロナワクチン未接種者は8時30分からPCR検査。各選手のビデオや写真撮りで昼過ぎまでホテルで過ごした後、ウーバータクシーで大型ショッピングセンターへ。タクシーよりも安価だが、運転が荒く、テーマパークの乗り物のよう。エジプトは信号機がほぼないため、車線変更などはクラクションを鳴らし、自己主張しながら走ったものの勝ちといったスタンス。ボディーがでこぼこの車が多い。怖いのか楽しんでいるのか、その様子をInstagramでライブ中継していた選手もいた模様。スイーツを食べたり、お土産を買ったり、2時間ほど自由時間を過ごす。

ホテルに戻り、各自食べ物を持ち寄り、ささやかな祝勝会で和やかな時間を過ごすことができた。23時頃に解散。



## Last DAY

12月19日

最終日は、フライト調整で市内観光する時間ができた。日本チームの警備として警察官が同行。考古学博物館でツタンカーメン、サハラ砂漠でピラミッドとスフィンクスなど、教科書で見た世界遺産を足早に見学。ピラミッドは誰もが「でかっ!」と口にした。

カイロ空港での出国審査に時間がかかり、走って搭乗してドバイへ。ドバイ空港では40分ほど自由時間があり、ここで買い物タイム。いよいよ成田へという時にF選手が搭乗券を落としたことが判明(;)。ゴミ箱の上に置いてあったチケットを見つけ、飛び乗る。焦った……ふう。拾った方に感謝。13時間のフライトで成田に到着。

応援してくださった皆さま、ご支援・ご協力してくださった皆さま、そしてお出迎えいただいた皆さま、ありがとうございました。



### 一般財団法人日本ドッジボール協会

<https://www.dodgeball.or.jp>

〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405  
TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840

この事業は、日本スポーツ振興センターのスポーツ振興基金助成を受け行われました。



スポーツ振興基金助成事業  
独立行政法人日本スポーツ振興センター



# ドッジボールニュース

号外

2023.03

## 世界大会初出場の日本代表、 3カテゴリーでメダル獲得の快挙!!

### Dodgeball World Cup 2022 Cairo

新たな挑戦～JBDA技術の結晶～

選手団長 長谷川 満也

2022年12月14日～17日、エジプト・カイロにおいて、表題の大会(マルチボール種目)が各大陸から8カ国を集めて開催されました。アジアパシフィック予選で本選出場権を獲得した日本は女子カテゴリーで銀メダル、男子および混合で銅メダル獲得と素晴らしい成績を収めました。また、審判員も山口勉さんが大会最終戦の男子決勝戦主審に抜擢され、日本の審判員技術が最大限に評価されました。いずれも長年にわたりJBDAゲームによって培われた技術と応用力の賜物です。

JBDAが設立されて30年余り、その力と技が世界に認められた大会でした。外交面でも城門理事長とWDAのトム会長のトップ会談が実現し、協調路線の歩みやシングルボール種目のW杯採用などについて、貴重な意見交換の場となりました。選手、審判員の皆さんは今回の経験を生かして、今後「自ら考察、企画、行動する」を念頭に、マルチボール種目の国内普及に努めてほしいと思います。

新しい力がたくさん生まれました。バトンはつなぎました。それぞれの新しいチャレンジに期待します。選手団を代表し、お世話になったすべての方々にお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました!



#### 日本代表BIOGRAPHY

- 2012 コリアオープンドッジ選手権 韓国
- 2013 第1回ADC ASIANCUP 日本
- 2014 第2回ADC ASIANCUP 韓国
- 2016 第3回ADC ASIANCUP 香港
- 2017 ASIA PACIFIC CHAMPIONSHIP 2017 KUALA LUMPUR マレーシア(マルチ)
- 2018 第4回ADC ASIANCUP 韓国
- 2018 WDA Dodgeball World Cup world invitational部門 米国(マルチ)
- 2019 ADF ASIAN DODGEBALL CHAMPIONSHIP 香港(マルチ)
- 2022 WDA Dodgeball World Cup 2022 Cairo エジプト(マルチ)

#### WOMEN JAPAN 準優勝



#### MEN JAPAN 第3位



#### MIX JAPAN 第3位



## 僕らの挑戦は、これからも続く

日本代表監督 #1 吉田 隼也

「Dodgeball World Cup 2022 Cairo」において、日本チームは初のドッジボール世界大会に出場、そして入賞を果たしました。日本のドッジボールに、また一つ新しい歴史と道筋が加わった瞬間でした。この道筋は、これからのドッジボールの未来を明るくしてくれると私は信じています。皆さま、改めてたくさんの応援とご支援、叱咤激励を本当にありがとうございました。

私が、世界のドッジボールの主流が複数のボールを使う「マルチボールスタイル」であることを知ったのは、2011年末のことでした。

「ドッジボールがいつかオリンピック種目になつたらいいよね」

「ドッジボールにはどうして世界大会がないのだろう」

私は、自分でも不思議ですが、この思いに向き合ってみようと思ったのです。

今は何でも簡単に調べられる時代。正しいことも、そうでないことも、スマホ1台で簡単に情報を手に入れられます。2012年、海外のドッジボールについて調べる中で、アメリカやヨーロッパでは独自のマルチドッジボールのリーグ戦が開催されていることを知りました。どうやら海外ではマルチ(当時はそう呼んでいませんでしたが)で国際試合やクラブリーグがあるらしい、と。

もし、このマルチがオリンピック種目になつたら、日本のドッジボールはどうなるのだろう? 僕らの知らない誰かが日本のドッジボールの代表として試合に出て、審判をして、大会を運営をする姿が浮かびました。

まずは自分から挑戦しよう、飛び込む意味を考え過ぎず、感じてこようと思いました。そしてイギリス、アメリカへ。その世界に飛び込み、自分の感覚を手に入れ帰国すると、2012年秋に国際親善試合の韓国遠征の募集が始まりました。そこから、今に至ります。

この先、ドッジボールが国際競技になるべく前進していく時、JDBAルールのドッジボールがマルチと共にその道を進んでいくことが大切だということは忘れていません。しかるべき時、その場所に僕らJDBAのドッジボールを愛する仲間がたくさんいてくれる未来を思い描きながら、一つ一つ積み重ねていきます。まだまだ、これからです。



応援ありがとう!



MIX 日本対マレーシア

## どんな状況でも最高のプレーを!

WOMEN キャプテン #6 岩田 晴世

まず、日本ドッジボール協会をはじめ、役員・スタッフ・審判員の方々、そして日本代表の活動に多大なご支援をくださっているDJBFの皆さん、応援していただいた皆さんに深く感謝申し上げます。

私たち日本のドッジボール選手は、世界最高峰の舞台「Dodgeball World Cup 2022 Cairo」で戦い、男子3位、MIX3位、女子2位という結果を残すことができました。全力テグリーで入賞という成績を収めたものの、一番輝くメダルまでは届かず、日本選手団はそれぞれに熱い思いを胸に帰国しました。

海外での開催ということもあります、独特な雰囲気の中でアウェーの洗礼を受けるも、日本選手団が一手一つに心を合わせられたのは、現地や日本からの応援があったからだと思います。

私自身は、主将として日の丸を背負う責任と自覚はもちろん、姿で見せることを心に置いて挑みました。チームが一つになるためには仲間を信じることが大切だと改めて実感。また、今回の大会を通して「どんな状況でも最高のプレーをする。そうすることでドッジボールができる喜びを感じ、観ている人や応援してくださっている方に喜んでいただける」と感じました。

引き続き、日本のドッジボールの普及・発展に尽力し、憧れの選手になれるよう精進してまいりますので、今後とも応援をよろしくお願いいたします。



WOMEN決勝を戦ったエジプトチームと健闘をたたえあう



## 興味から信頼へ。決勝の主審を務めるまで

審判員 山口 勉

「日本は審判できるの? 線審ならできる?」。どうやら信頼されていなかったようです。そして「取りあえず、次の試合、山口主審でやってみて」。

試合前半、空手の型のようなアウトコールをする日本の審判員に、他の審判員が興味を持ちました。興味から信頼へ、でしょうか。シングルボールで培った審判技術を遺憾なく発揮したところ、試合後、両チームの監督や審判員から「グッジョブ、ジャパニーズ」と、握手を求められました。

「次はエジプト対マレーシア、一番タフな試合になる」と言われ、主審を任せられました。その言葉どおり、両チームの監督と選手、両国の審判員が入り乱れての抗議合戦に。私は、毅然とした態度で冷静に対応しました。この対応で、さらに信頼を得ることができ、決勝での主審につながったと思います。

シングルボールでは期待に応えられず、結果が出せないまま迷惑を掛けてきた審判活動ですが、そこで鍛えられた技術・メンタルが役に立ちました。今まで応援してくれた人に少しだけですが恩返しできた気がします。

## カairo 遠征報告

広報・マネージャー担当 後藤聖子

### 1st DAY

12月14日

成田空港を22時30分に離陸してからおよそ12時間、乗り継ぎのためドバイ空港で待機。選手の体調管理、国内待機組への連絡、広報作業後、全員揃ってカairoまで3時間、トータル15時間の移動となった。エジプトに入国後、チャーターバスで大会会場へ向かったのだが、道路は砂で覆われ、木々の葉もくすんで

みえる、思っていた以上に茶色い国だった。

まず、バスの運転手からミネラルウォーターを購入したのですが、価格が約3倍と、しょっぱなからまさかのぼったくり。(通常は1本約25円で購入できる。)エジプト国内では飲料用としてはもちろん、歯磨き、コンタクトの洗浄などすべてミネラルウォーターを使用した。ここから毎日水を大量購入することとなる。

会場到着後にウォーミングアップで軽く汗を流すことができ、移動のストレスをやや解消できることはありがたかった。宿舎は大会主催者紹介で会場から車で5分のホテル。アジア予選香港大会とは違いふかふかのベッドルームで選手のテンションも上がったようだ。初日は全員揃ってホテルのイタリアンレストランで夕食をとり1日目終了。

### 2nd DAY

12月15日

朝6時台に朝食を取り、8時にホテルを出発。試合はMIXの予選から始まった。大会プログラムやスケジュールなどはすべてデジタル対応で、紙媒体はなし。スマホで閲覧する運営方法で、試合結果もすぐに確認できる。2コートのみYouTube配信もあり、世界中のファンも観戦可能に。

会場内でのお弁当販売がなく、「各チームはデリバリーで対応」との案内。安全牌を選択し、ビックマックセット(約500円)を全員分注文。ウーバータクシーで店員が配達してきたのには驚いた。

MIX予選を2勝1敗で終了。宿舎で修正箇所を確認し、明日に備える。



### 3rd DAY

12月16日

MIX予選・決勝トーナメントと戦い、結果は第3位。この日の昼食もマクドナルド。油が滴るポテトは選ばず、ビックマックとコカ・コーラ。朝、ホテル近くの青果店で買ったバナナとY選手の家族からの差し入れのようかんがうれしい。

また、出国前から連絡していたエジプト大使館からの情報で、在エジプト日本人ファミリーが応援に駆けつけてくれた。ダイソーブランチの応援扇子が大活躍! MEN/WOMENの予選が続き、22時頃、宿舎に戻る。各自夕食を取り就寝。

